

## 課程 全日制

教科	公民	科目	公共	単位数	2	学年	1	科	全学科
使用教科書		高等学校 公共（第一学習社）							
補助教材等		クローズアップ公共（第一学習社） 公共ノート（第一学習社）							

## 1 学習の到達目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究し、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- ③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

## 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 日頃からメディアで報道される時事的な課題に関心を持つとともに、自分なりの論点を見いだすよう努めよう。
- 客観的な資料に基づいて諸課題を考察し、解決のあり方を模索する態度を身に付けよう。

## 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
主な評価方法	・ペーパーテスト（知識・技能にかかわる問題）の結果	・ペーパーテスト（思考・判断・表現にかかわる問題）の結果 ・提出課題の記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
一 学 期	4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち I 公共的な空間と人間とのかかわり 1 社会に生きる私たち 2 個人の尊厳と自主・自律 3 多様性と共通性 4 キャリア形成と自己実現 II 社会に参画する自立した主体として 1 伝統や文化とのかかわり	教科書・補助教材等		社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか、自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。(a)</li> <li>・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であることを理解している。(a)</li> <li>・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。(b)</li> <li>・孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるとともに、異文化などの他者との協働により、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察、表現している。(b)</li> <li>・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともに、よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。(a)</li> <li>・伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。(b)</li> <li>・公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul>
		第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 I 人間としてのあり方生き方についての探求 1 人間と社会のあり方についての見方・考え方 2 実社会の事例から考える～環境保護			古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択・判断の手がかりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。(a)</li> <li>・環境保護や生命倫理に関する事例をもとに、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をもとに、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。(a)</li> <li>・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見</li> </ul>

一学期	5	<p>第3章 公共的な空間における基本的原理</p> <p>I 自立した主体となることに向けて</p> <p>1 人間の尊厳と平等</p> <p>2 個人の尊重</p> <p>3 民主政治の基本的原理</p> <p>4 法の支配</p> <p>5 自由・権利と責任・義務</p> <p>II よりよい公共的な空間づくりをめざして</p> <p>1 世界のおもな政治体制</p> <p>2 日本国憲法に生きる基本的原理</p>	古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。	<p>い出すことに向け、思考実験などを通して、多面的・多角的に考察、表現している。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間としてのあり方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。(a)</li> <li>・幸福、正義、公正などに着目して考えている。(b)</li> <li>・公共的な空間でどのように生きるかについて、先哲の生き方などを参考に、人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。(a)</li> <li>・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。(a)</li> <li>・幸福、正義、公正などに着目して考えている。(b)</li> <li>・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。(b)</li> <li>・個人と国家・社会との関係から、世界のおもな政治体制について、自己のあり方生き方と民主主義がどのように関係しているか理解している。(a)</li> <li>・公共的な空間における基本的原理と日本国憲法の基本的原則を関連させながら、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul>
	6	<p>第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち</p> <p>第1章 法的な主体となる私たち</p>	憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a)</li> <li>・生徒に身近な紛争や課題を取り上げ、どのようにすれば公平・公正に調整できるのか、主体的なルールを作成・利用することで考察、</li> </ul>

一 学 期		<p>主題1 法や規範の 意義と役割</p> <p>1 私たちの生活と 法</p> <p>2 法と基本的人権</p> <p>3 自由・平等と法・ 規範</p> <p>4 法をよりよく変 えていくために</p> <p>主題2 契約と消費 者の権利・責任</p> <p>1 さまざまな契約と 法</p> <p>2 消費者の権利と責 任</p>		<p>を調停、解決するこ となどを通して、権 利や自由が保障、実 現され、社会の秩序 が形成、維持されて いくことについて 理解する。</p> <p>法やルールを定め る時には、どのよう なことに配慮する 必要があるかを理 解する。</p> <p>契約が対等な当事 者間の合意といえ るための条件を理 解する。</p>	<p>構想、表現している。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法には国家と国民の間を規律する公法や、私人間を規律する私法などがあること、法は刑罰などによって国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけではなく、国民の活動を積極的に促進し、紛争を解決するなど、日常生活に密接に関連していることを理解している。(a)</li> <li>・基本的人権が保障されるにいたった経緯を、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a)</li> <li>・法をよりよく変えていくために、自由権の意味や、社会権が私たちの生活をどのように変えたのか、新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。(b)</li> <li>・幸福、正義、公正などに着目して考えている。(b)</li> <li>・法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成年年齢が18歳以上となったことに対し、成年年齢の意味と成年の責任について理解している。(a)</li> <li>・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a)</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a)</li> <li>・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。(b)</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を具体的な例をもとに、主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul>
				26	

二 学 期	7	<p>主題3 司法参加の意義</p> <p>1 裁判所と人権保障</p>	<p>個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民の権利を守り、社会秩序を維持するために、公正な裁判が保障され、法律家が重要な役割を果たしていることを理解している。(a)</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a)</li> <li>・検察審査会や国民の司法参加の意義など、具体的な主題を設定し、その主題を追究・解決するために考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul>
	8	<p>第2章 政治的な主体となる私たち</p> <p>主題4 政治参加と公正な世論の形成</p> <p>1 選挙の意義と課題</p> <p>2 政治参加と世論形成</p> <p>3 国会と立法</p> <p>4 内閣と行政の民主化</p> <p>5 地方自治と住民の福祉</p>	<p>よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。</p> <p>民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a)</li> <li>・選挙権年齢が18歳以上であることを踏まえ、選挙の意義や、政治的無関心の危険性などについて理解している。(a)</li> <li>・選挙のしくみ、政党の役割、世論の形成について、さまざまな情報手段を活用して、考察、構想し、表現している。(b)</li> <li>・国会の地位と構成・権限、議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について、理解している。(a)</li> <li>・地方自治には、直接民主制の考え方に基づくしくみが、国政よりも多く取り入れられていること</li> </ul>

二 学 期	9	<p>主題5 国際社会と国家主権</p> <p>1 国家と国際法</p> <p>2 国境と領土問題</p> <p>3 国際連合の役割と課題</p>	主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。	<p>を理解しつつ、地方自治の課題についても考察、構想し、表現している。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)</li> <li>・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a)</li> <li>・国際法の意義と役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。(b)</li> <li>・国際社会と国家主権について、国境や領土をめぐる諸課題を主体的に解決するために、必要な情報を収集し、考察、構想している。(b)</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a)</li> <li>・国際連合などの国際機関の役割や課題について、国際平和の維持と安定のために広い視野に立って考察、構想したことを、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul>
		<p>主題6 日本の安全保障と防衛</p> <p>1 平和主義と安全保障</p> <p>2 核兵器の廃絶と国際平和</p>	日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるように、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a)</li> <li>・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。(b)</li> <li>・核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について、さまざまな観点から考察している。(b)</li> <li>・日本の安全保障と防衛について、国連憲章や日米安全保障条約、平和主義を掲げる日本国憲法の下、現代の諸課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。(c)</li> </ul>
	10	<p>主題7 国際社会の変化と日本の役割</p> <p>1 今日の国際社会</p> <p>2 人種・民族問題と地域紛争</p>	国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a)</li> <li>・人種・民族問題と地域紛争の実態、難民問題にする資料を、さまざまな情報手段を用いて収集し、課題</li> </ul>

二学期	11	<p>3 国際社会における日本の役割</p> <p>第3章 経済的な主体となる私たち</p>		<p>少子高齢化による労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。</p>	<p>の解決に向けて、国際社会では何がおこなわれているか、理解している。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変化する国際情勢の中で、日本の安全が世界の平和の維持といかに関連しているか、広い視点に立って理解し、さまざまな観点から考察している。(b)</li> <li>・持続可能な開発(SDGs)にふれながら、国際社会の安定について、国民レベル、国家レベル、国際レベルで何ができるかを、さまざまな観点から考察し、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul> <p>・仕事と生活との調和という観点から、雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業・家計・政府の三つの経済主体を考え、経済的な主体となる私たちは、どのように経済活動に参加しているのか、理解している。(a)</li> <li>・雇用と労働問題について、日本的雇用慣行の崩れなど、現代の諸課題を主体的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・近年の雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体例をあげて多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。(c)</li> </ul>
		<p>主題9 社会の変化と職業観</p> <p>1 技術革新の進展と産業構造の変化</p> <p>2 企業の活動</p> <p>3 農林水産業の現状とこれから</p>		<p>グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化と職業観について、人工知能の進化の影響など、現代の諸課題を理解している。(a)</li> <li>・技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な問題と関連させて考察、構想し、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・企業の役割や種類から、株式会社のしくみや企業の社会的責任について考察、構想し、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・農林水産業の現状と今後について、さまざまな情報を基に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。(c)</li> </ul>

三 学 期	12	<p>主題 10 市場経済の機能と限界</p> <p>1 市場経済と経済運営</p> <p>2 市場経済のしくみ</p> <p>3 経済発展と環境保全</p> <p>4 経済成長と国民福祉</p>	<p>公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解している。(a)</li> <li>・価格の変化が、消費者と企業の行動にどのように影響を及ぼしているか、さまざまな観点から多面的・多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a)</li> <li>・市場機能の限界に対する公共財の供給について、政府の役割を多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・外部不経済の典型例である公害について理解し、公害を防止し環境を保全するための方策について考察、構想し、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・経済成長が生活に与える影響を、具体的事例をあげて考察している。(b)</li> <li>・市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul>
		<p>主題 11 金融のはたらき</p> <p>1 金融の意義や役割</p>	<p>経済において、金融市場はどのような役割を果たしているのかを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a)</li> <li>・資金の流れ、金融機関の役割、日本銀行の役割について理解している。(a)</li> <li>・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。(b)</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に取り組もうとしている。(c)</li> </ul>
		<p>主題 12 財政の役割と社会保障</p> <p>1 政府の経済的役割と租税の意義</p> <p>2 社会保障と国民福祉</p>	<p>少子高齢化が進む中で、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a)</li> <li>・財政政策の意義、日本の財政の課題を理解し、財政のしくみ、租税の意義と課題について、具体的に事例をあげて考察、構想し、主体的に考えている。(b)</li> <li>・社会保障の意義を理解し、現在の社会保障の課題について考察している。(b)</li> </ul>



三 学 期	1	<p>主題 13 経済のグローバル化</p> <p>1 国際分業と国際貿易体制</p> <p>2 国際収支と為替相場</p> <p>3 経済のグローバル化と日本</p> <p>4 地域的経済統合の動き</p> <p>5 国際社会における貧困や格差</p> <p>6 地球環境問題</p> <p>7 資源・エネルギー問題</p> <p>8 国際社会のこれから</p>	<p>経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度の充実・安定化に関し、各国の租税負担など財政状況を比較しながら、日本の社会保障制度の諸課題を多面的・多角的に考察、構想、表現している。(b)</li> <li>・財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul>
	2	<p>第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち</p> <p>①地球環境問題～排出量取引を考える</p>	<p>持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a)</li> <li>・グローバル化の進展により、貧困や格差の問題、地球環境問題などの解決が、地球的な課題となっていることを理解している。(a)</li> <li>・貿易の意義、円高・円安が生じる理由、貿易摩擦などについて、考察、構想し、表現している。(b)</li> <li>・国際経済問題の解決には、国家や国際機構などの多様な組織による協力が重要であることを理解している。(a)</li> <li>・地域的経済統合がもたらす影響について理解している。(a)</li> <li>・国際社会における貧困や格差が解消されていない現状について、国際機構の役割や政府開発援助の意義が大きいことを理解している。(a)</li> <li>・地球環境問題が国際的な問題になっていることや、その解決に向けての取り組みを考察、構想し、表現している。(b)</li> <li>・資源の有限性を理解しつつ、新エネルギーなどの開発が期待されていることを理解している。(a)</li> <li>・地理など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。(b)</li> <li>・国際協力のあり方、国際協調の重要性から、日本の役割について自分自身の問題として、主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul>

三 学 期	<p>②資源・エネルギー問題～ベストミックスを考える</p> <p>③生命倫理～ゲノム編集を考える</p> <p>④情報～インターネットによる投票を考える</p> <p>⑤国際社会の課題～フェアトレードを考える</p>		16	<p>目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の諸課題を、「第1編 公共の扉」で学んだことを基に、幸福、正義、公正や公共的な空間における基本的原理を用いて、考察、構想し、論拠をもって表現している。(b)</li> <li>・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)</li> </ul>
-------------	---	--	----	------------------------------	---

合計70時間

課程 全日制

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2	学年	2	科	全学科
使用教科書		明解 歴史総合（帝国書院）							
補助教材等		明解 歴史総合図説 シンフォニア（帝国書院） 明解 歴史総合ノート（帝国書院）							

### 1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ② 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

### 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 歴史を「自分事」として理解し、主体的に考えるために、日頃からニュースなどに目を通して身近な諸問題について興味・関心を広め、歴史と現代の諸課題を関連づけられるようにこころがけよう。
- 歴史的事象の暗記におちいらないようにこころがけながら、「歴史の学び方」を学び、歴史と現代の諸課題の原因や背景を、客観的な資料に基づいて自ら調べ、その解決のあり方を積極的に模索できるような学びの場としよう。
- グローバル化する国際社会の中で、新たな社会を創造できる工業人となるためにも、日本だけでなく世界の歴史や現代社会の構造を知り、これからの人生に生かせるような広い視野と深い教養を獲得できるように授業に取り組もう。
- 単位数が少ないため、1時間1時間の授業を大切にすること。欠課・遅刻をしないこと。

### 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそ の中の日本を広く相互的な	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を

	視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	較, 相互の関連や現在とのつながりなどに着目して, 概念などを活用して多面的・多角的に考察したり, 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や, 考察, 構想したことを効果的に説明したり, それらを基に議論したりする力を身につけている。	主体的に追及, 解決しようとする態度を養うとともに, 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚, 我が国の歴史に対する愛情, 他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査(知識・技能にかかわる問題)の結果</li> <li>・小テストの結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査(思考・判断・表現にかかわる問題)の結果</li> <li>・定期考査の論述問題やレポートの記述内容</li> <li>・グループでの話し合いや発表などの場面での観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の発言内容や行動観察</li> <li>・定期考査の論述問題やレポートの記述内容</li> <li>・生徒による自己評価や相互評価の様子、記述内容</li> </ul>

#### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
一学期	4	<b>1部 歴史の扉</b> 1章 歴史と私たち  2章 歴史の特質と資料  <b>2部 近代化と私たち</b> 序章 近代化への問い	教科書・補助教材等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの身近にあるものには, どのような歴史や世界との結びつきがあるのだろうか。</li> <li>・私たちは過去の状況をどのようにして知り, 伝えてきたのだろうか。</li> <li>・「近代化」について考察しよう!</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの事象と世界の歴史が結び付いていることを理解している。(a)</li> <li>・身の回りの事象と世界の歴史との結びつきについて考察し, 表現している。(b)</li> <li>・絵画・文書資料・統計データなど歴史における資料の重要性と, 事実と解釈を分けて読み取るなどの適切な読み解き方について理解している。(a)</li> <li>・近代化に関する複数の資料を分析し, そこから抜き出した情報を適切に取り扱う技能を身に付けている。(a)</li> <li>・資料から得た情報と, 中学校までの学習で得た知識を統合し, 近代化を読み解く問いを表現している。(b)</li> <li>・中学校までの学習を踏まえて, 見通しをもって</li> </ul>

一 学 期	5	1章 江戸時代の日本と結び付く世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18世紀の日本やアジア，ヨーロッパは，それぞれどのように結び付いていたのだろうか。</li> </ul>	<p>学習に取り組もうとし，問いを繰り返し洗練させていくなど，粘り強く取り組もうとしている。(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と，日本への影響について，資料を読み取り，理解している。(a)</li> <li>・「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し，みずからの言葉で表現している。(b)</li> <li>・18世紀の世界交易が，現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)</li> </ul>
		2章 欧米諸国における近代化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米で起こった市民革命・産業革命により，社会はどのように変化したのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民社会と国民国家の形成，資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について，資料を読み取り，理解している。(a)</li> <li>・市民革命および産業革命の経緯などから，諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し，みずからの言葉で表現している。(b)</li> <li>・市民革命や産業革命が，現代社会に与えた影響と課題について，追究しようとしている。(c)</li> </ul>
		3章 近代化の進展と国民国家形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代化が進むなかで，欧米諸国はどのような国家を形成していったのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について資料を読み取り，理解している。(a)</li> <li>・国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧，帝国主義が人類に与えた変化について考察し，みずからの言葉で表現している。(b)</li> <li>・国民国家や帝国主義政策が，現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)</li> </ul>
		4章 アジア諸国の動揺と日本の開国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代化した欧米諸国の進出に，アジア諸国や日本はどのように対応したのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について，資料を読み取り，理解している。(a)</li> <li>・「西洋の衝撃」の歴史的意義について，アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し，みずからの言葉で表現している。(b)</li> <li>・欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が，現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)</li> </ul>
	6			

一学期		<p>5章 近代化が進む日本と東アジア</p> <p>「近代化」を振り返り現代的な諸課題と結び付けて考えよう！</p>		<p>・日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化していったのだろうか。</p> <p>・現代の諸課題を通し、近代化とは何だったのかを考察しよう。</p>	<p>・明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。(a)</p> <p>・明治維新の歴史的な意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、みずからの言葉で表現している。(b)</p> <p>・明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)</p> <p>・2部で学習したことを基に、近代化を特色づける四つの項目についてまとめ、近代化の特徴を理解している。(a)</p> <p>・2部序章で立てた問いに対し、キーワードとなる五つの視点のいずれかから考察し、資料を用いて根拠を明らかにして、みずからの見解を表現している。(b)</p> <p>・近代化に関連する現代の課題について考察し、歴史的な経緯を踏まえたうえで解決策を追究しようとしている。(c)</p>
二学期	7	<p>3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち</p> <p>序章 国際秩序の変化や大衆化への問い</p> <p>1章 第一次世界大戦と日本の対応</p>	教科書・補助教材等	<p>「国際秩序の変化や大衆化」について考察していこう！</p> <p>・第一次世界大戦は、日本を含む世界の人々にとってどのような戦争になったのだろうか。</p>	<p>・国際秩序の変化や大衆化に関する複数の資料を分析し、そこから抜き出した情報を適切に取り扱う技能を身に付けている。(a)</p> <p>・資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を総合し、国際秩序の変化や大衆化を読み解く問いを表現している。(b)</p> <p>・中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。(c)</p> <p>・国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解している。(a)</p> <p>・第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。(b)</p> <p>・勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加</p>
	8				

二 学 期	8	2章 国際協調 と大衆社会の広 がり			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欧米や日本など、世界各地に広まった大衆化とは、どのようなものだったのだろうか。</li> </ul>	<p>が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解している。(a)</li> </ul>
	9					<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現している。(b)</li> <li>・ ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半の大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)</li> </ul>
	10	3章 日本の行 方と第二次世界 大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。(a)</li> <li>・ ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、みずからの言葉で表現している。(b)</li> <li>・ 世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)</li> </ul>		
	11	4章 再出発す る世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第二次世界大戦を経て、国際秩序はどのように変化したのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解している。(a)</li> <li>・ 国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。(b)</li> <li>・ 大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)</li> </ul>		
	11	「国際秩序の変 化や大衆化」を 振り返り現代的 な諸課題と結び			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代の諸課題を通し、国際秩序の変化や大衆化について考察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3部で学習したことを基に、国際秩序が大きく変化し、大衆化が進展した時期についてまとめ、その特徴を理解している。(a)</li> <li>・ 3部序章で立てた問いに対し、キーワードとな</li> </ul>

		付けて考えよう！		28	しよう。	る5つの視点のいずれかから考察し、資料を用いて根拠を明らかに、自らの見解を表現している。 (b) ・国際秩序の変化や大衆化に関連する現代の課題について考察し、歴史的な経緯を踏まえたうえで解決策を追究している。(c)
三学期	12	4部 グローバル化と私たち 序章 グローバル化への問い  1章 冷戦で揺れる世界と日本  2章 多極化する世界	教科書・補助教材等		「グローバル化」について考察していこう！  ・冷戦が展開されるなかで、日本や世界の国々はどのような選択をしたのだろうか。  ・冷戦が展開されるなかで、日	・グローバル化に関する複数の資料を分析し、そこから抜き出した情報を適切に取り扱う技能を身に付けている。(a) ・資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を総合し、グローバル化を読み解く問いを表現している。(b) ・中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。(c)  ・冷戦下の緊張と緩和の経緯と、そのなかでの日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を読み取り、理解している。(a) ・冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、みずからの言葉で表現している。(b) ・冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)  ・冷戦下の1960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を読み取り、理解



三 学 期	2	3章 グローバル化のなかの世界と日本		本や世界の国々 はどのような経 済成長を遂げた だろうか。	している。(a) ・各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起 こった要因や世界史における意義について考察 し、みずからの言葉で表現している。(b) ・冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、 現代社会に与えた影響と課題について追究しよう としている。(c)
	3	これまでの学習 を振り返り 現代的な諸課題 の形成と展望を 考えよう！	16	・冷戦が終わ り、グローバル 化は、世界をど のように変えた だろうか。  ・現代の諸課題 をグローバル化 という視点から 考察しよう	・冷戦終結の過程とグローバル化の特質につい て、資料を読み取り、理解している。(a) ・グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズ ムの強化について各地域を比較して考察し、その 特質や問題点をみずからの言葉で表現している。 (b) ・冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会 に与えた影響と課題について追究しようとしてい る。(c)  ・4部で学習したことを基に、グローバル化につ いてメリットとデメリットについてまとめ、その 特徴を理解している。(a) ・歴史を読み解く5つの視点を踏まえ、これまで 学習した内容から現代的な諸課題を一つ取り上げ て探究の方向性を決める問いを設定し、教科書や ほかの資料を用いてまとめたうえで、課題の解決 へ向けた見解を表現している。(b) ・みずから設定した問いに対し、学習して身につ けた知識や教科書、その他の資料を活用して、課 題の解決のために、主体的・計画的に探究学習に 取り組もうとしている。(c)

合計70時間

課程 全日制

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書		高等学校改訂版新現代社会（第一学習社）							

### 1. 科目の目標と評価の観点

目標	人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野にたつて、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としてのあり方・生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
評価の観点	①心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	現代の社会に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的・意欲的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	現代の社会に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに国際社会に生きる人間として適切に判断し、表現する能力を身につけている。	現代の社会に関する統計・資料・地図などを読み取る技術を身につけ、諸課題を解決する能力を身につけている。	現代の社会に関する基礎的な知識を身につけ、現代の国際社会や日本の社会における意義や役割を理解している。

### 2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査			○	◎	学習内容の総合的理解
課題の提出		◎	○		レポート提出、期限の厳守、まとめ方
学習上の観察	◎	○			出席状況・授業への取り組み
小テスト			○	◎	各学期に1回実施

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

### 3. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位数が少ないため、1時間1時間の授業を大切にすること。欠課・遅刻をしないこと。</li> <li>・課題の提出については、年間を通してそれほど多くはないが、1回1回の課題の重みが大いことを理解し、提出期限は厳守すること</li> </ul>
---

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	第2編 現代社会と人間としてのあり方を生き方 第2章 個人の尊重と法の支配	期末考查 左記範囲	26
	5月	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義		
	6月	第4章 国際政治の動向と日本の役割		
二 学 期	7月		期末考查 左記範囲	28
	8月	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第5章 現代の経済社会と私たちの生活		
	9月			
	10月	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第6章 国際経済の動向と日本の役割 第1章 青年期と自己の形成		
三 学 期	11月		期末考查 左記範囲	16
	12月	第1編 私たちの生きる社会 環境と私たちの生活 資源・エネルギー問題と私たちの生活		
	1月	科学技術の発達と私たちの生活 高度情報社会と私たちの生活		
	2月			
	3月			

合計70時間

課程 全日制

教科	地理歴史	科目	日本史 A	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書		高等学校改訂版日本史 A（第一学習社）							

### 1. 科目の目標と評価の観点

目標	日本の歴史を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察することによって、歴史的思考力を身につけ、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
評価の観点	①心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	日本の歴史に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的・意欲的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	日本の歴史に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに国際社会に生きる人間として適切に判断し、表現する能力を身につけている。	日本の歴史に関する資料・年表・地図・系図等を読み取る技術を身につけ、歴史的諸課題を解決する能力を身につけている。	日本の歴史に関する基礎的な知識を身につけ、現代の国際社会において歴史を学ぶ意義や役割を理解している。

### 2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査			○	◎	学習内容の総合的理解
課題の提出		◎	○		レポート提出，期限の厳守，まとめ方
学習上の観察	◎	○			出席状況・授業への取り組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

### 3. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位数が少ないため、1時間1時間の授業を大切にすること。欠課・遅刻をしないこと。</li> <li>・課題の提出については、年間を通してそれほど多くはないが、1回1回の課題の重みが大いことを理解し、提出期限は厳守すること</li> </ul>
---

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	日本の歩みを振り返ろう 第1章 近代国家の形成と国際関係の推移 第1節 近代への胎動 1 せまってくる外国船	期末考查 左記範囲	26
	5月	4 揺らぐ幕藩体制 第2節 開国と幕末の動乱 1 黒船がやってきた		
	6月	2 志士たちの時代 3 手を結ぶ薩長 5 江戸時代が終わり新政府へ		
二 学 期	7月	第3節 近代国家の形成 1 江戸が東京になった 2 天皇の軍隊がつくられた 3 スローガンは「富国強兵」 5 日本の国境が定まった	期末考查 左記範囲	28
	8月	6 爆発する農民や士族の不満 7 国会開設が決まった		
	9月	8 地主制が進行した 9 立憲政治がはじまった 10 国会が初めて開かれた		
	10月	第4節 国際関係の推移と近代産業の発展 1 欧米と肩を並べる国をめざして 2 清国との対立が深まった		
	11月	3 藩閥と政党が接近した 4 ロシアとの戦争がおこった 5 アジアへの勢力拡大がはじまる		
三 学 期	12月	6 国民の生活が圧迫された 7 錦糸と生糸が支えた産業革命 8 欧米の資本主義に仲間入りした 9 貧富の格差が広がった	期末考查 左記範囲	16
	1月	第2章 両大戦をめぐる国際情勢 第1節 第一次世界大戦と日本 第2節 第二次世界大戦と日本		
	2月	第3章 現代の日本と世界		
	3月			

合計70時間

課程 全日制

教科	公民	科目	倫理	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書		高等学校 現代倫理 新訂版（清水書院）							

### 1. 科目の目標と評価の観点

目標	青年期における自己形成と人間としてのあり方や生き方について理解と思索を深め、生きる主体としての自己の確立を目指す。人間の知的財産である宗教や思想を学び、思索を深める態度と知識を獲得する。			
評価の観点	①心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	倫理に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的・意欲的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	倫理に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに国際社会に生きる人間として適切に判断し、考える能力を身につけている。	倫理に関する資料・略伝・著作等を読み取る技術を身につけ、先人たちが、他者の思考をどのように受け止め継承してきたか、それを踏まえ考える能力を身につけている。	倫理に関する基礎的な知識を身につけ、現代の国際社会において学ぶ意義や役割を理解している。

### 2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査			○	◎	学習内容の総合的理解
課題の提出		◎	○		レポート提出，期限の厳守，まとめ方
学習上の観察	◎	○			出席状況・授業への取り組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

### 3. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業を大切にすること。欠席・遅刻をできるだけ少なくすること。
--------------------------------

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	第1編 現代に生きる自己の課題	期末考查 左記範囲	26
		第2編 人間の生き方と社会のあり方		
	5月	第1章 哲学と宗教の源流 古代ギリシアの思想		
	6月	唯一神の宗教 古代インド思想と仏教 中国思想		
	7月	第2章 日本の思想の歩み 日本の自然と日本神話		
二学期	8月	仏教の受容と展開	期末考查 左記範囲	28
		近世の道德		
	9月	幕末から近代国家への移行 近代日本の模索 世界大戦後とその後の日本		
	10月	第3章 現代社会への道程 人間の尊厳		
	11月	近代科学と人間		
三学期	12月	民主社会と幸福 自己実現と社会参加 新しい時代への扉	期末考查 左記範囲	16
	1月	第3編 現代の諸課題と倫理		
	2月			
	3月			

合計70時間

課程 全日制

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書		最新 政治・経済新訂版(実教出版)							

### 1. 科目の目標と評価の観点

目標	広い視野に立って民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治・経済・国際関係について客観的に理解させるとともに、それらに関する諸問題を主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力を態度を育てる。			
評価の観点	①心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	政治・経済に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的・意欲的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	政治・経済に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに国際社会に生きる人間として適切に判断し、表現する能力を身につけている。	政治・経済に関する資料・地図・データ等を読み取る技術を身につけ、諸課題を解決する能力を身につけている。	政治・経済に関する基礎的な知識を身につけ、現代の国際社会において学ぶ意義や役割を理解している。

### 2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査			○	◎	学習内容の総合的理解
課題の提出		◎	○		レポート提出, 期限の厳守, まとめ方
学習上の観察	◎	○			出席状況・授業への取り組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

### 3. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業を大切にすること。欠席・遅刻をできるだけ少なくすること。
--------------------------------



4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	第1章 現代の政治 現代国家と民主政治	期末考查 左記範囲	26
	5月	日本国憲法と基本的人権		
	6月	日本の政治制度と政治参加 現代の国際政治		
	7月	日本の平和主義と国際平和		
二 学 期	8月	第2章 現代の経済 現代の経済社会	期末考查 左記範囲	28
	9月			
	10月	現代の日本経済と福祉の向上 現代の国際経済		
	11月	第3章 現代社会の諸課題 地域社会の変貌と住民生活		
三 学 期	12月	産業構造の変化と中小企業 農業と食料問題 雇用と労働をめぐる問題	期末考查 左記範囲	16
	1月	少子高齢化社会と社会保障 地球環境問題		
	2月			
	3月			

合計70時間